

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年11月13日 (2014.11.13)

【公開番号】特開2012-231847(P2012-231847A)

【公開日】平成24年11月29日 (2012.11.29)

【年通号数】公開・登録公報2012-050

【出願番号】特願2011-100999(P2011-100999)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月25日 (2014.9.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を実行し、有利条件が成立したことにともづいて有利状態に制御する遊技機であって、

前記有利状態に制御するか否かを決定する決定手段と、

前記決定手段の決定結果にもとづいて、1段階から複数段階まで演出の態様が段階的に変化可能なステップアップ予告演出を複数種別の中から選択するとともに、該選択した種別の前記ステップアップ予告演出において演出の態様を変化させる段階数を選択する予告演出選択手段と、

前記予告演出選択手段が選択した前記ステップアップ予告演出を実行する予告演出実行手段と、

遊技者の動作を検出可能な動作検出手段とを備え、

複数種別の前記ステップアップ予告演出は、リーチ成立前から前記ステップアップ予告演出の実行が開始され、リーチ成立後も演出の態様が所定段階数変化可能であり、

リーチ成立後に演出の態様が変化可能な前記所定段階数は、前記ステップアップ予告演出の種別に応じて異なり、

リーチ中に、動作検出手段による検出にもとづく演出を実行可能である演出実行手段をさらに備えた

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技者による第 1 動作に対応する第 1 動作演出、および遊技者による第 2 動作に対応する第 2 動作演出を含む複数種類の動作演出を実行するか否かを決定する動作演出決定手段と、

前記第 1 動作を検出する第 1 動作検出手段、および前記第 2 動作を検出する第 2 動作検出手段を含む複数種類の動作検出手段と、

前記動作演出決定手段の決定結果にもとづいて、動作演出を実行する動作演出実行手段と、

前記動作演出決定手段によって動作演出を実行することが決定された場合に、前記第 1 動作または前記第 2 動作を促す動作促進演出を行う動作促進手段と、

前記動作演出実行手段により動作演出が実行される場合に、前記動作促進手段によって

前記動作促進演出が行われ、且つ、動作検出手段により前記第１動作または前記第２動作が検出されたときに特別演出を実行する特別演出実行手段とを備え、

前記第１動作演出および前記第２動作演出のうち、前記動作演出決定手段による実行決定確率が低い方が、高い方と比べて、前記動作演出実行手段により動作演出が実行されたときに有利状態に制御される確率が高く、かつ、前記特別演出実行手段により前記特別演出が実行されたときに前記有利状態に制御される確率が高い

請求項１記載の遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００１】

本発明は、可変表示を実行し、有利条件が成立したことにもとづいて有利状態に制御するパチンコ機やスロット機、パロット機などの遊技機に関する。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

そこで、本発明は、複数種別のステップアップ予告演出を実行可能な遊技機において、期待感を長期間持続させることができるとともに、ステップアップ予告演出による遊技の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

（手段１）本発明による遊技機は、可変表示を実行し、有利条件が成立したことにもとづいて有利状態に制御する遊技機であって、有利状態に制御するか否かを決定する決定手段（例えば、ＣＰＵ１０３によるステップＳ２４１を実行する部分）と、決定手段の決定結果にもとづいて、１段階から複数段階（例えば、第５段階）まで演出の態様が段階的に変化するステップアップ予告演出（図５７、図５８等参照）を複数種別の中から選択するとともに、該選択した種別のステップアップ予告演出において演出の態様を変化させる段階数を選択する予告演出選択手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０によるステップＳ７０１～Ｓ７０７を実行する部分）と、予告演出選択手段が選択したステップアップ予告演出を実行する予告演出実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０によるステップＳ１７２を実行する部分）と、遊技者の動作を検出可能な動作検出手段とを備え、複数種別のステップアップ予告演出は、リーチ成立前からステップアップ予告演出の実行が開始され、リーチ成立後も演出の態様が所定段階数変化可能であり（図５０、図５１、図５７、図５８参照）、リーチ成立後に演出の態様が変化可能な所定段階数は、ステップアップ予告演出の種別に応じて異なり（例えば、第１ステップアップ予告はリーチ成立後に第５ステップの演出のみ実行可能であり、第２ステップアップ予告はリーチ成立後に第４および第５ステップの演出を実行可能である）、リーチ中に、動作検出手段による検出にもとづく演出を実行可能である演出実行手段をさらに備えたことを特徴とする。そのような構成によれば、期待感を長期間持続させることができるとともに、ステップアップ予告演出の種別に注目させて遊技興趣のさらなる向上を図ることができる。

また、遊技者による第１動作に対応する第１動作演出、および遊技者による第２動作に

対応する第 2 動作演出を含む複数種類の動作演出を実行するか否かを決定する動作演出決定手段と、第 1 動作を検出する第 1 動作検出手段、および第 2 動作を検出する第 2 動作検出手段を含む複数種類の動作検出手段と、動作演出決定手段の決定結果にもとづいて、動作演出を実行する動作演出実行手段と、動作演出決定手段によって動作演出を実行することが決定された場合に、第 1 動作または第 2 動作を促す動作促進演出を行う動作促進手段と、動作演出実行手段により動作演出が実行される場合に、動作促進手段によって動作促進演出が行われ、且つ、動作検出手段により第 1 動作または第 2 動作が検出されたときに特別演出を実行する特別演出実行手段とを備え、第 1 動作演出および第 2 動作演出のうち、動作演出決定手段による実行決定確率が低い方が、高い方と比べて、動作演出実行手段により動作演出が実行されたときに有利状態に制御される確率が高く、かつ、特別演出実行手段により特別演出が実行されたときに有利状態に制御される確率が高いように構成されていてもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

(手段 2) 手段 1 において、リーチ成立前とリーチ成立後に実行可能な演出の態様を、通常演出態様 (例えば、図 5 2 に示すようなキャラクタの服が無地の柄の演出態様) とするか、該通常演出態様とは異なる特定のデザイン (例えば、桜柄) を使用した特殊演出態様 (例えば、図 5 2 に示すようなキャラクタの服が桜柄の演出態様) とするかを決定する演出態様決定手段 (例えば、演出制御用 CPU 1 2 0 によるステップ S 5 1 1 を実行する部分) を備え、該演出態様決定手段は、決定手段により有利状態に制御すると決定されたか否かに応じて、リーチ成立前に実行される演出の態様を特殊演出態様とするか、リーチ成立後に実行される演出の態様を特殊演出態様とするかを決定する (例えば、ステップアップ予告におけるリーチ成立前に実行されるステップの演出において桜柄演出を実行するか、リーチ成立後に実行されるステップの演出において桜柄演出を実行するかを決定する; 図 2 3 の桜柄演出決定テーブル、図 4 5 のステップ S 7 5 3 ~ S 7 5 5 参照) ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定のデザインを用いた演出が実行されたときの遊技の進行状況に応じて有利状態となる割合を異ならせることができ、遊技者の期待感に抑揚をつけることができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

(手段 3) 手段 1 または手段 2 において、リーチ成立前とリーチ成立後に実行可能な演出の態様を、通常演出態様 (例えば、図 5 2 に示すようなキャラクタの服が無地の柄の演出態様) とするか、該通常演出態様とは異なる特定のデザイン (例えば、桜柄) を使用した特殊演出態様 (例えば、図 5 2 に示すようなキャラクタの服が桜柄の演出態様) とするかを決定する演出態様決定手段 (例えば、演出制御用 CPU 1 2 0 によるステップ S 5 1 1 を実行する部分) と、所定の移行条件が成立したこと (例えば、時短状態の場合は非確変大当りにもとづく大当り遊技状態が終了したこと、確変状態の場合は確変大当りにもとづく大当り遊技状態が終了したこと) にもとづいて、通常状態であるときに比べて有利状態となりやすい特別状態 (例えば、時短状態または確変状態) に制御する状態制御手段 (例えば、CPU 1 0 3 によるステップ S 3 0 2, S 3 1 0, S 3 2 4, S 3 2 5 を実行する部分) と、を備え、決定手段は、有利状態に制御するか否か (例えば、ステップ S 2 4 1) と所定の移行条件を成立させるか否か (例えば、ステップ S 2 4 4) を決定し、演出態

様決定手段は、決定手段により所定の移行条件を成立させると決定されたか否かに応じて、リーチ成立前に実行される演出の態様を特殊演出態様とするか、リーチ成立後に実行される演出の態様を特殊演出態様とするかを決定する（例えば、決定手段の決定結果が「リーチハズレ」「非確変大当り」「確変大当り」かどうかに応じて、ステップアップ予告におけるリーチ成立前に実行されるステップの演出において桜柄演出を実行するか、リーチ成立後に実行されるステップの演出において桜柄演出を実行するかを決定する；図23の桜柄演出決定テーブル、図45のステップS753～S755参照）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定のデザインを用いた演出が実行されたときの遊技の進行状況に応じて特別状態となる割合を異ならせることができ、さらに遊技者の期待感に抑揚をつけることができる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

（手段5）手段4において、演出態様決定手段は、決定手段により有利状態に制御すると決定されたか否かに応じて、リーチ成立後のいずれの段階の演出の態様を特殊演出態様とするかを決定する（例えば、ステップアップ予告におけるリーチ成立後に実行されるステップの演出において桜柄演出を実行するかを決定する；この場合、図23に示すテーブルにおいてリーチ成立後のステップである「su4」および「su5」にのみ乱数値を割り当てればよい）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、リーチ成立後のいずれの段階数で特殊演出態様が行われるかについて注目させることができ、より一層遊技の興趣を向上させることができる。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

（手段6）手段1から手段5のうちのいずれかにおいて、演出態様決定手段は、演出の態様を複数回特殊演出態様とすると決定可能であり（例えば、ステップアップ予告の第3ステップと第5ステップにて2回の桜柄演出を実行すると決定可能であり）、有利状態とならない識別情報の可変表示が実行される場合は、特殊演出態様の実行回数を所定回数（例えば、1回）以内に制限する実行回数制限手段（例えば、図23に示すように確変大当りの場合以外は、第3ステップ及び第5ステップにて桜柄演出を実行しないように制限している構成；なお、非確変大当りのときも第3ステップ及び第5ステップに乱数値を割り当てることにより大当たりとならない場合は桜柄演出を2回実行しないように制限することが可能である。）を備えていてもよい。そのような構成によれば、特殊演出態様に対する期待感を過度に煽りすぎないようにすることにより、特殊演出態様が行われるか否かに対する期待を維持させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。